令和３年度　Ｎｏ．１

銀杏坂

～輝く薩摩中央～

令和３年６月２日（水）　南日本新聞

宮之城中学校との交流が，南日本新聞に掲載されましたので紹介します。

地元で学ぶ意欲高めよう

薩摩中央高 宮之城中 町内唯一の中高交流

さつま町の薩摩中央高校で5月25、26の両日、地元の宮之城中学校3年生が高校の授業を体験した。同町には中高それぞれ1校ずつしかない。中学生の進路選択に役立ててもらい、定員割れが続く高校の活性化につながればと、共同で初めて企画した。

高校3年生によるエンジンの分解作業に見入る宮之城中学校の生徒　＝さつま町の薩摩中央高校

進路参考に体験授業 初企画

同高の本年度の新入生は定員160人に対して56人で、普通科8人、生物生産科22人、農業工学科13人、福祉科13人。うち、同中の出身は24人で、卒業生全体の15％に満たない。多くが薩摩川内市や出水市の高校に進学している。

中学生約160人は二手に分かれて、高校の通常授業の中から興味のある2コマを選んで体験した。農業工学科の3年生によるディーゼルエンジンの分解作業を見学したり、福祉科2年生と介護施設でのレクリエーション用の紙細工を作ったりした。

中学生の原幸士朗さんは「エンジンを使った実習は面白そうだった。進路を選ぶ参考にしたい」。福祉科への進学を希望する中囿郁人さんは「いい経験になった。受験に向けて勉強を頑張る」と話した。

薩摩中央高の川俣昭寿校長(58)は「今後も交流を深め、地元高校への関心を高めていきたい。地域課題についての共同学習にも取り組んでいけたら」と話している。

（右田雄二）